

～ 3年連続の一等米比率90%以上を目指し、H29JAなのはな米品質向上運動を実施中 ～

- これからは気温が高くなります。育苗ハウスは十分な換気を行い、がっちり苗に仕上げましょう。
- 基肥量は、土壌条件に応じた施肥基準となるよう調整し、必ず落下量を確認してください。
- 代かき後の雑草の発生が早くなっています。除草剤は遅れずに散布しましょう。

1 硬化期の育苗管理

- ・日中のハウス内温度は25℃以下を目安にしましょう。
- ・かん水は、床土の乾きに応じ、的確に行いましょう。
(育苗培土の種類により乾き具合が異なるので注意)
- ・田植7～10日前からは、夜間もハウスを開け、外気にならしましょう。

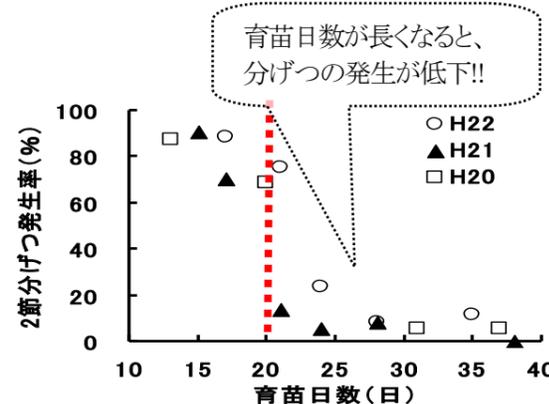


図 育苗日数と2節分けつ発生率の関係 (農研)

2 本田準備

- ・ヒエ等の雑草の発生を抑えるため、代かきは田植予定日の3～5日前に実施しましょう。
- ・代かきは、少なめの水で行って稲わら等の埋没に努め、代かき後の濁り水を用水に流さないよう注意しましょう。

3 基肥量の調節

★田植前に必ず基肥量を調節しましょう。

①適切な施肥設計

安易な施肥量削減は、初期茎数がとれにくくなったり、穂揃期以降のチッソ供給不足による白未熟粒の増加要因につながります。特に近年は、出穂期以降の高温により、稲体活力低下による品質低下や減収が懸念されています。品種や圃場条件に応じた基肥量など適切な施肥設計を行いましょう。

②田植同時施肥機の開度の確認

前年、基肥一発肥料が余った(注文数量より使用量が少ない)場合、以下を参考に田植機の施肥部分の開度を確認し、地域の基準量を確実に施用しましょう。

また、田植作業の最初の田では、肥料使用量と田面積から施用量を算出し、基準どおりか確認しましょう。

■主な農機具メーカー別の施肥量開度調節

「基肥一発肥料」は、比重が小さく、粒径が大きいことから、設定量が落下しにくいいため、以下を参考に開度調整をしてください。

メーカー(開度調整部例)	井セキ	クボタ	○ヤンマー
開度調節方法	<ul style="list-style-type: none"> ●NP、PZシリーズ(2ケタシリーズ) ・株間副変速レバーが「標準」になっているか確認ください。 ・施肥量調節ダイヤルを目標施肥量より約20%大きく設定してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●EPシリーズ ・比重調節ノブで区分(比重)小を選択し、次に施肥量調節ノブで目安表に対して目標の施肥量位置に針が来るよう調節してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●RJ-4、RJ-5、RJ-6 ●RG-5、RG-6、RG-7、RG-8 ・調量ダイヤルを目標施肥量より約10%大きく設定してください。

※ 富山県JAグループ・全農富山県本部「水稻一発肥料 肥効調節型肥料ハンドブック」より引用

4 苗箱施薬による病虫害防除

～ 苗箱施薬は規定量を確実に入れましょう ～

使用農薬	散布量	施薬時期	対象病虫害	使用回数
Dr.オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱	緑化期 ～移植当日	いもち病 イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ (白葉枯病・もみ枯細菌病:移植3日前～移植当日登録)	1回

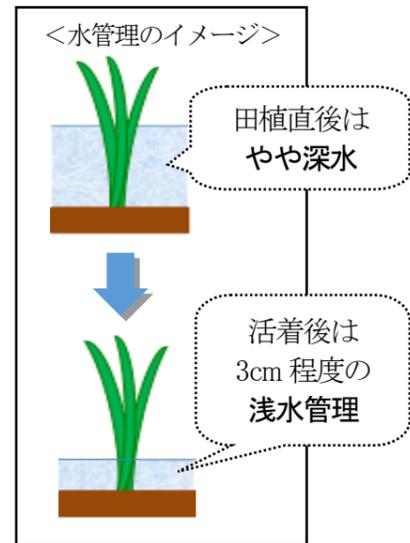
(注1) 播種時使用は不可(播種同時剤は別途ご相談ください)

(注2) 水稻育苗後にハウス内で野菜等の栽培を行う場合には、苗箱施薬剤は必ず育苗ハウスの外で散布してください(ポジティブリスト対応)。

5 田植えと水管理

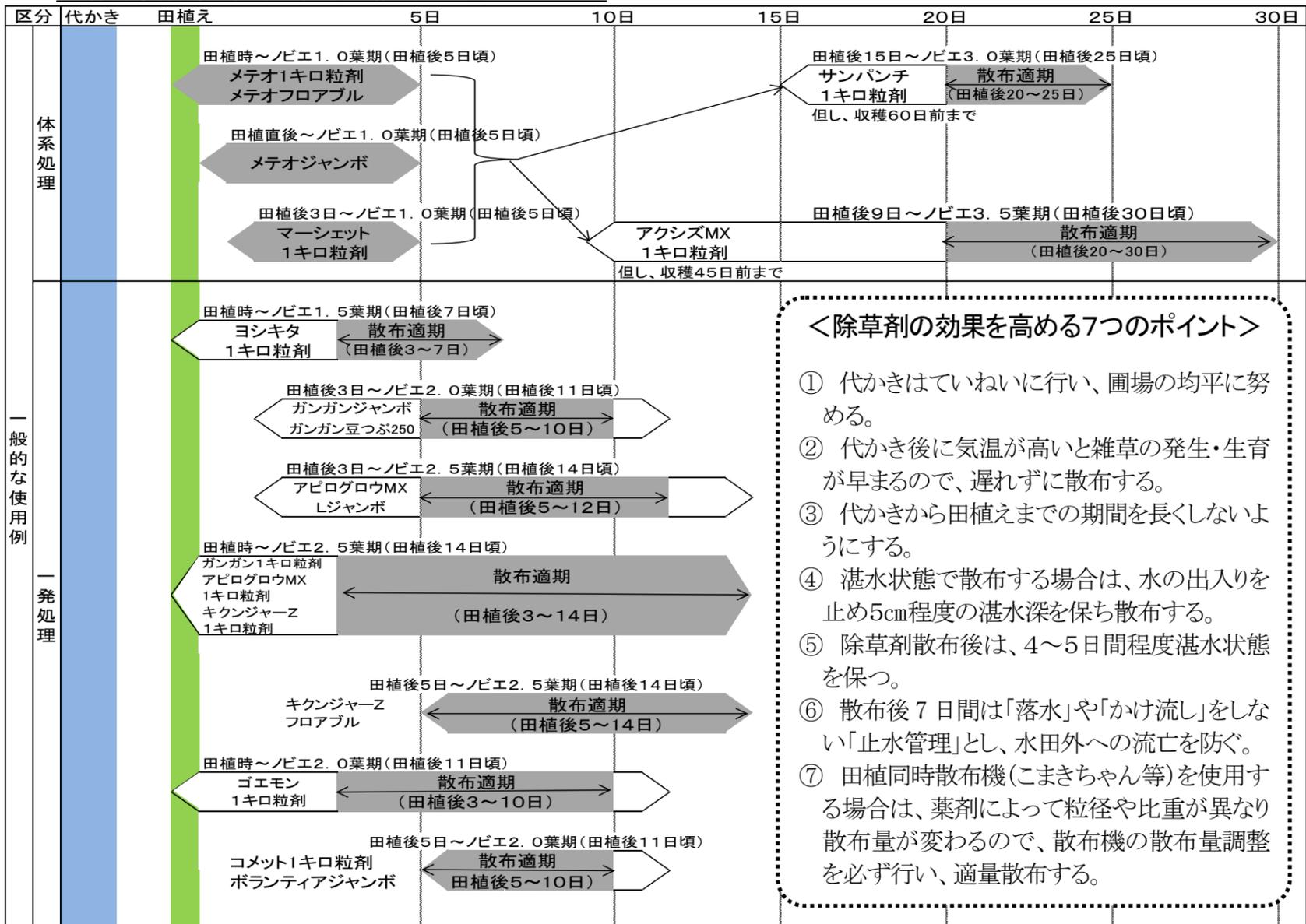
- ・コシヒカリの田植えは5月15日を中心とし、22日頃までに終わらしましょう。
- ・栽植密度は70株/坪・植付本数は3～4本/株、植付深さは3cm程度の浅植え(第1葉がみえる程度)を励行しましょう。
- ・田植直後は水没しない程度のやや深水、活着後は田面が露出しない程度の浅水とし、早朝入水・昼間止水で田水温が高くなるよう、適切な水管理に努めましょう。

※基肥量は、地域ごとの施肥設計(稲作ごよみ)をご確認ください。



6 除草剤の散布

■雑草防除体系(除草剤の散布は遅れずに！)



～ 農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう！ ～

★なのはな農協では、皆様に電子メールによる営農情報の提供を行っています★

＜情報提供内容＞

- ・栽培管理情報
- ・緊急的な気象情報や災害防止対策、栽培管理等の情報
- ・その他必要と思われる情報

★営農情報提供サービスへの登録はこちらから(QRコードにスマホ等をかざして必要な情報を登録してください)



★春の農作業安全運動実施中(4/1～5/31)
農機からの転落・転倒防止などの安全対策を徹底し、農作業中の事故発生を防ぎましょう！